

(様式1)

職業実践力育成プログラム(BP)への申請について

平成30年3月27日

①学校名:	東洋英和女学院大学 大学院	②所在地:	東京都港区六本木5-14-40		
③課程名:	東洋英和女学院大学大学院 人間科学研究科人間科学専攻 修士課程人間科学領域	④正規課程／履修 証明プログラム:	正規課程	⑤開設年月日:	平成5年 4月
⑥責任者:	人間科学研究科長 久保田まり	⑦定員:	人間科学研究科人間科学専攻37名 (平成28年度人間科学領域 修了者数7名)	⑧期間:	2年間
⑨申請する課程 の目的・概要:	人間科学研究科人間科学専攻修士課程人間科学領域は、人間の発育・行動・心理について、死生学、社会福祉学、教育学、宗教学の視点から専門的、多角的、学際的に研究することを特色としている。高齢化社会における在宅看護、終末医療等の介護・看護問題、児童虐待や育児放棄等の児童福祉問題等の今日的な社会的要請に応じるため、人間社会に関する幅広い高度な研究と教育をとおして、医療・社会福祉・教育等の職業領域で活躍ができる専門職業人の育成を目的とする。主に看護師や製薬会社の社員等の医療関係者、高齢者や障がい者等の社会福祉施設および児童養護施設の職員、大学および専門学校の教員等、現役の職業人が仕事を通じて生じたテーマを社会人大学院である本学で研究している。大学院修了後は、各人が研究成果を職業現場で実践し、職場や仕事の改善、自らの能力開発に役立っている。				
⑩4テーマへの 該当の有無	女性活躍	⑪履修資格:	平成30年度の履修(出願)資格 次のいずれかに該当する者 (1) 大学を卒業した者および平成30年3月卒業見込みの者 (2) 大学改革支援・学位授与機構において、学士の学位を授与された者および平成30年3月末までに授与される見込みの者 (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および平成30年3月修了見込みの者 (4) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号) (5) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることとその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者 (6) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の学校教育における16年の課程を修了した者 (7) 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校課程(文部科学大臣指定外国大学日本校)を修了した者 (8) 研究科委員会が、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者(出願資格については書類審査が必要)		
⑫対象とする職業の種類:	医療関係、社会福祉関係、教育機関等に属する職業				
⑬身に付けることのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) 人間科学領域における各分野(発育・発達、社会福祉、教育、死生学等)のこれまでの学際的な知見及び近年の調査研究の動向や問題、課題に関する知識及び調査研究計画立案、多様な研究方法、様々な統計処理方法、調査結果分析手法等に関する技術や技能の能力が身に付けられる。		(得られる能力) 専門分野に関する幅広い高度な論理的思考力。 学際的な問題意識の形成力。		

⑭教育課程:	<p>人間科学研究科人間科学専攻人間科学領域は、発育・発達学、社会福祉学、教育学、死生学等の分野からなる学際的研究を目指している。特に死生学は、日本の大学院で最初に死生学研究分野を開設した。これまでに100名以上の修了生を輩出し、医療機関、教育機関等の最前線で活躍している。</p> <p>本領域のカリキュラムは、基礎的研究の上に現代社会の実際的問題に関する研究と教育を重視して編成されている。例えば、児童福祉、高齢者福祉、現代女性論、非行問題、在宅ホスピス論、ターミナルケア論、生命倫理などが扱われる。</p> <p>1年次の前期及び後期の人間科学基礎演習Ⅰ・Ⅱでは、大学院での学び方、文献の読み方、文献目録の作成方法、研究計画の立案方法、様々な調査研究手法等を学ぶ。2年次前期においては、より具体的に修士論文作成方法を学び、調査研究を実践し、その結果を分析、考察する。後期においては、修士論文作成へと進む等、大学院修了まで主指導教員及び副指導教員によるきめ細かな指導を行う。なお、1、2年次において、修了に必要な単位数の科目を履修するが、計画的に履修できるように、学生の理解度に合った履修計画に関する指導等も主指導教員及び副指導教員が行っている。</p> <p>直近の過去3年度(平成26年度から平成28年度)の修了生は19名。そのうち、18名が社会人として入学、1名は大学からの新卒者であった。進路の内訳は、看護師4名、医師1名、製薬会社2名、福祉施設4名、教員3名、大学教授アシスタント1名、心理相談室経営1名、大学院進学3名となっている。医療機関、教育機関、福祉施設等の有職者が本大学院で研究し、各職場の中核を担う人材を輩出する社会人の学び直し大学院としての一翼を担っている。</p>				
⑮修了要件(修了授業時数等):	必修8単位以上を含む30単位以上の修得および修士論文または研究成果を提出し合格すること				
⑯修了時に付与される学位・資格等:	修士(人間科学)				
⑰総授業時数:	150	単位	⑱要件該当授業時数:	100	⑲要件該当授業時数 / 総授業時数: 67%
⑳成績評価の方法:	授業科目の成績評価は、試験、論文、レポート、発表及び出席状況その他の学習態度を考慮して授業担当教員が行う。修士論文の審査及び最終試験は主査1名、副査2名によって行う。				
㉑自己点検・評価の方法:	①大学基準協会への自己点検・評価に対する学内委員会を設置し、申請を行うことを通して自己点検・評価を行っている。②在学生に対するアンケート調査を行い、学習環境、カリキュラム等に関して意見を聞いている。③年2回、在学生を対象に院生懇談会を開催して、様々な意見を直接聞くことを行っている。④研究科委員会内にFD委員会を設置して、在学生からの意見内容等を検討したり、日頃、教員として、学生指導を行っていることを通して生ずる諸問題を検討し、教育環境の向上に資することを行っている。				
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法:	修了者の就業状況や修得した能力等に対して、人間科学研究科委員会内に設けられたFD委員会で検討を行い、各教員の授業内容の向上に努めている。より具体的な就業状況や修得した能力の把握については、在学中の各学生一人ひとりに対して、1年次に決まる主指導教員と副指導教員の2名によって行われている。特に、大学院修了後においてもなんらかの形で大学院と関係のある修了生については、主指導教員と副指導教員が様々な機会を利用して、在学中の学びが修了後にどのように活かされているのか、就業状況や修得した能力が仕事の中でどのように活かされているのか等、把握することに努めている。特に、年間通じて開催している本学死生学研究所の連続講演・シンポジウム等を活用している。修了生の就業状況の動向や在学中に修得した能力が就業現場でどのように活かされているのかについて、人間科学研究科FD委員会で効果検証を行う。				
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み:	<p>(教育課程の編成) 横浜相原病院の外部評価や意見を取り入れ、教育課程の編成の検討や取り組みに関する評価を人間科学研究科委員会内で検討する。</p> <p>(自己点検・評価) 外部評価を行ってもらう横浜相原病院に対して、該当年度の教育課程の実施状況及び自己点検・評価を説明し、助言指導等を受けることを、年間1~2度開催する。</p>				
㉔社会人が受講しやすい工夫:	社会人が受講しやすいよう、平日夜間と土曜日に授業を開講している。具体的には、月曜日から金曜日は18時30分から21時40分、土曜日は9時から19時30分に授業を開講している。人間科学研究科人間科学専攻人間科学領域は一般教育訓練給付の指定講座となっている。				
㉕ホームページ:	(URL) http://www.toyoeiwa.ac.jp/daigakuin/kenkyuuka/h_master.html				

事務担当者名:	田澤 聡	所属部署:	大学院事務室
連絡先:	(電話番号)03-3583-4031 (E-mail) daigakuin@toyoeiwa.ac.jp		

* パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。